



## ⑥川ひらた(通称：五平太船)

江戸時代末から明治、大正時代にかけては筑豊の石炭運送の主役として活躍した。船の構造は浅い川での運送に便利なように喫水を浅くし、船べりを広く取って造られていた。特に浅瀬を通過する時は、船体が“しなる”ように設計されていた。積載量は大型で6トン余、最も多い中型で4トン余りくらいだったといわれる。帆を張ることもあったが、堀川では棹(さお)や櫂(ろ)を使って船を進め、空船の時は陸上から綱でひっぱりしていた。

■所在地：八幡西区大膳2-23-1(折尾高校内)【参照：P12～P15】

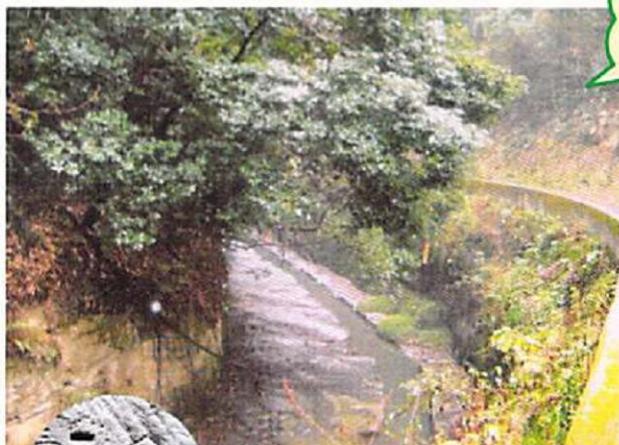
## ⑦宝暦水跡

折尾高校付近にも大きな水脈があり、宝暦年間に湧き水が出た。その湧き水は、切り貫き工事の人達や馬の貴重な飲み水であった。

■所在地：八幡西区大膳(切り貫き付近)



青の洞門よ!  
スゴイ!



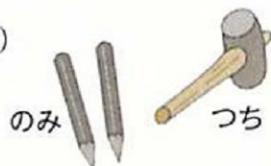
## ⑧車返しの切り貫き

堀川開削工事の一番の難所。ノミとツチで岩を砕く幻の「とひ切り技法」によって開削された。硬い岩盤であったため、長さ405m、川幅6.8m、深さは車返しの峠から川底まで約20mを9年の歳月をかけ、宝暦9年(1759)に完成。

所在地：八幡西区大膳

(折尾高校下から水巻町の河守神社)

【参照：P12～P15】



約250年前の無数のノミ跡や線刻文字、川ひらたの棹を差した穴が残る。

## ⑨河守神社

福岡藩六代藩主、黒田継高を祀る。河守神社の氏子は、堀川用水を利用する旧16ヶ村で構成され、交代制で堀川の管理をしていた。拜殿には三十六歌仙絵馬があり、石垣には堀川の歴史のタイル画がある。また、珍しい逆立ち狛犬、立ち狛犬がある。奉納相撲は、遠賀郡三大相撲として有名だった。

■所在地：遠賀郡水巻町吉田東3-1【参照：P12～P15】



## ⑩舩石(もやいいし)

川ひらたを係留するために使った石の杭。

石のサイズは、高さ20cm～40cm、幅15cm、厚み10cm位。

その中央に直径5cm位の綱を通す穴が貫通してる。

■所在地：八幡西区大膳(定格橋の横)【参照：P12～P15】